

つかめ!

## センバツ切符

—中—

秋季東海高校野球大会・県勢紹介

苦しい試合を乗り越えながら着実にレベルアップを遂げてきた。大垣日大は県3位での通過ながら気後れはない。「チームは大きく成長してきたし、さらに進化を続けている自負がある」と主将田中健。阪口慶三監督も「3位校でもここまでやれるというところを見せたい。そして岐阜のレベルの高さを示してやりたい」と高まる意欲を隠さない。

## 大垣日大

抜き、県大会でも1、2回戦こそ大差をつけたが、準々決勝の美濃加茂戦では1点差での辛勝。準決勝では、県岐阜商を相手に打線が振るわずに敗れた。

それでも苦戦こそ課題克服の、特効薬になった。地区から背番号1を担ってきた軟投派和久田優志は雪辱を胸にひたむきな投げ込みで安定感を増し、勢いのある球を投げ込む1年生高田航生も負けじと力を伸ばした。「タイプの違う左右

## 守備力アップに自信



県大会準決勝で相手走者の本塁生還を阻む大垣日大の捕手横江大聖。戦果を左右する守備の要として真価が問われる一大野レインボースタジアム

2投手が確立したことで、を自在に外していけるよう(相手打者の)タイミングになった」と指揮官。受け

る捕手横江大聖のインサイドワークも実戦を通じて磨かれ、「バッテリーがチームを変える原動力になった」と続ける。

選手自身にも慢心とは違う手応えがある。「夏以降、集中して取り組んできたノックのお陰で取れるアウトがしっかり取れるようになってきた」と田中健。横江も「特に守備は県大会よりも成長している」と胸を張る。

秋季東海大会で2連覇し、2年連続のセンバツ出場を確定つけた秋からはや2年。甲子園舞台を知る選手は一人もいなくなった。だが、だからこそ勝ちにこだわる執念が再び宿り始めてきた。このチームの良さは甲子園に行きたい、という強い思いが日ごろの練習からにじみ出ているところ。阪口監督。夢を追う集団は「火の玉」となり、勝負の舞台へと挑みかかる。